

## 平成30年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

本部町		事業名	計画期間	事業概要		H30成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H30活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
パ 細								
1	①	花いっぱい運動の推進事業	H24 ～ H33	観光地としての魅力的な景観形成を図るため、国道及び県道沿い等に花木の植付を行い、町ぐるみで花いっぱいの環境づくりを行う。	・プランターへの植付=1191基 ・町花壇、観光アクセス道路沿い植栽マスの植付	観光地として魅力的であると感じる人の割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を観光客を対象としたアンケートで検証する。	【今後のスケジュール】 今後も継続的に花木の植付を行い、地域ぐるみの花いっぱい運動を推進する。	【H30成果目標設定の考え方】 対象者のうち大多数が魅力的な景観形成が図られたといえる数値として設定した。また、本事業の在り方についてアンケートにより検証する。
1	②	ハブ咬傷防止事業	H25 ～ H33	地域住民の生活圏や観光施設周辺などにおいて、ハブが多く出没していることから、捕獲機設置による駆除を実施することで、地域住民や観光客の咬傷被害防止を図る。	ハブ捕獲器を町内約350カ所に設置	ハブによる咬傷被害件数0件	【今後のスケジュール】 今後も継続的に捕獲器設置による駆除を行い、咬傷被害防止を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 咬傷被害件数0件を目指し、設定した。
1	③	伝統興行観光化事業	H25 ～ H31	沖縄の伝統興行である「闘牛」や「闘山羊」を新たな観光資源として活用し、ナイター闘牛や闘山羊大会として定期開催することで、観光客の誘致を図る。	伝統興行の実施 2回	闘牛・闘山羊大会来場者数:800人	【今後のスケジュール】 今後も継続的にイベントを定期開催し必要な整備を行うことで、観光客の誘致を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。
1	④	八重岳観光拠点整備事業	H25 ～ H30	日本一早い桜祭りとして有名な八重岳には毎年多くの観光客が訪れており、今後も本町の主要観光拠点として活用するため、親水性護岸整備を行い、さらなる観光客の誘致を図る。	親水性護岸整備工事の実施	H30年度桜まつり来場者数160,000人以上	【今後のスケジュール】 多様な利活用により観光客の入込数の増加につなげ地域の活性化を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。

H30活動目標(指標):平成30年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものの。

H30成果目標(指標):平成30年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年度夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成30年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

本部町		事業名	計画期間	事業概要		H30成果目標(指標)	備考	
事業番号	H30事業内容			H30活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
パ 細								
1	⑤	本部町観光振興基本計画策定事業	H30 ～ H31	本町の観光振興を推進するため、これまでの施策の検証を行うとともに、町の観光振興の指針となる観光振興基本計画を策定する。	観光振興基本計画基礎調査の実施	観光振興基本計画策定に向けた検証の完了	<p>【H32成果目標】 策定する観光振興計画の中で、主要観光地の入込客数等、観光振興に係る目標値を設定し、当該目標に向けた観光振興施策を実施する。</p> <p>【今後のスケジュール】 平成30年度 基礎調査 平成31年度 計画策定 平成32年度～ 計画に基づく各事業の実施</p>	<p>【H32成果目標設定の考え方】 当該計画で設定した目標に向けた観光振興施策を実施していくことを目的として設定した。</p>
2	①	園芸農業防災施設整備事業	H24 ～ H30	沖縄県では台風の襲来や病害虫の発生により農作物の被害が大きくなるため、農家経営に対する不安や生産意欲の減退などの課題がある。そこで、農業生産物の出荷量向上を図るため、台風対策用の強化型パイプハウスの導入を行う。	農業用施設整備の支援	強化型パイプハウス設置の完了	<p>【H31成果目標】 にがり出荷量 1,800kg以上(1棟あたり)</p> <p>【今後のスケジュール】 今後も継続的に強化型ハウスの整備に必要な支援を行い、出荷量の向上を図る。</p>	<p>【H31成果目標設定の考え方】 過去の実績を参考に設定した。</p>
2	②	もとぶブランド牛基盤づくり支援事業	H25 ～ H33	肉用牛生産農家及び農業生産法人のもとぶブランド化の基盤創出のため、優良母牛の導入の支援を行う。	優良母牛導入の支援	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合107%以上	<p>【今後のスケジュール】 今後も継続的に優良母牛の導入支援を行い、農家の経営の安定化に向けて、ブランド化を推進する。</p>	<p>【H30成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。</p>

H30活動目標(指標):平成30年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものの。

H30成果目標(指標):平成30年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

## 平成30年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

本部町		事業名	計画期間	事業概要		H30成果目標(指標)	備考	
事業番号	事業内容			H30活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
2	③	メイドイン・もとぶ産品成長産業化推進事業	H28 ～ H33	本部町の地域の特性を活かしたもとぶ産品のPRや販売支援員の配置、物産展等への出展等を支援し、もとぶ産品の新規取引先の拡大を図る。	・商工会への支援の実施 (メイドインもとぶ産品のリスト化) (メイドインもとぶ産品のPR及び販売の支援) (県内外物産展等への出展支援)	新規取引契約数 10件以上	【今後のスケジュール】 今後も継続的に特産品PR及び販売支援を行うことで、もとぶ産品の新規取引先の拡大を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 過去実績を勘案し設定した。
2	④	もとぶ産業クラスター形成事業	H29 ～ H31	町内特産品製造事業者の特産品開発に係る助言や製造機械の導入の支援を行い、売上の向上を図る。	・もとぶ産品製造事業所の支援(ブランディング) (製造環境の向上) (事業所連携による新たな特産品の開発)	①ピーリングジェル販売額:5,040千円 ②絹ごしマーマレード等販売額:518千円 ③ブレンドティー等販売額:1,080千円 ④シークワーサーだいふく等販売額:1,312千円 ⑤エーシーシャンプー等販売額:2,036千円 ⑥シークワーサーあまざけソルベ販売額:525千円	【今後のスケジュール】 今後も継続的に特産品開発に係る助言や製造機械の導入の支援を行い、売上の向上を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 販売計画を基に設定した。
3	①	本部型就業意識向上支援事業	H29 ～ H31	町内小中高校生の勤労観や職業観の育成を図るため、ジョブシャドウイングや職場体験、インターンシップ等を行い、町内産業への理解や興味を深めてもらう。	ジョブシャドウイング、職場体験、インターンシップの実施(9校) 教職員向けマナー研修の実施(1回) 企業プレゼン大会の実施(1回) 町内企業体験学習会(わくわくワーク)の実施(3回)	小中高生へのアンケートを実施し、働くことへの興味・関心が湧いた(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	【今後のスケジュール】 今後も継続的に産学官の連携したキャリア教育を行い、働くことを考えてもらうきっかけづくりを行うことで、勤労観や職業観の育成を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 対象者のうち大多数が町内産業への理解や興味が深まったといえる数値として設定した。また、本事業の在り方についてアンケートにより検証する。
4	①	本部町学力向上学習支援事業	H26 ～ H33	町内小・中学校に学習支援員を配置し、国語、算数・数学、英語及びその他の主要教科において児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うことにより、学力の向上を図る。	・町立小学校 5校へ配置 ・町立中学校 2校へ配置	平成30年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 小学校 -4.6ポイント以上 中学校 -2.5ポイント以上	【今後のスケジュール】 今後も継続的に学習支援員を配置し、児童生徒の学力に応じた学習指導を行うことで、学力の向上を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 過去の実績を勘案して設定した。

H30活動目標(指標):平成30年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものの。

H30成果目標(指標):平成30年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

## 平成30年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

本部町		事業名	計画期間	事業概要		H30成果目標(指標)	備考		
事業番号	パ			細	H30事業内容		H30活動目標(指標)	今後の展開方針等	補足説明等
4	②	本部っ子短期留学チャレンジ事業	H27 ～ H33	海外での生活や体験を通して、国際的な広い視野を持つ人材を育成するため、夏休みを利用し町内中高生を英語圏へ短期間派遣する。	町内の中高生を英語圏へ短期間派遣(2週間)	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	【今後のスケジュール】 今後も継続的に町内中高生を英語圏へ派遣し、海外での生活や体験を通して、国際的な広い視野を持つ人材の育成を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 対象者のうち大多数が国際的な視野が広まったといえる数値として設定した。また、本事業の在り方についてアンケートにより検証する。	
4	③	学校ICT機器整備事業	H28 ～ H30	町内小中学校へのICT環境整備及びICT活用支援員を配置し、学校教員によるICT機器を活用した分かりやすい授業を展開することで学校教育の質の確保を図る。	無線LANの環境整備 2校 タブレット等の購入設置 83台 大型モニタの購入設置 12台 ICT活用支援員 1名配置	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。  ・教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	【今後のスケジュール】 今後も継続的に学校教員によるICT機器を活用した分かりやすい授業を展開することで、学校教育の質の確保を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 対象者のうち大多数が、授業が分かりやすかった及び習熟度が上がったといえる数値として設定した。また、本事業の在り方についてアンケートにより検証する。	
4	④	特別支援教育環境充実事業	H28 ～ H33	特別な支援を要する幼児児童生徒(心身の障害及び発達障害)に対し、特別支援教育支援員の配置及びスクールソーシャルワーカーを配置することで、学校生活や学習上の困難の改善を図る。	特別支援教育支援員 18名配置 スクールソーシャルワーカー 1名配置	園児児童生徒の保護者へのアンケートで、支援員等を配置することにより、対象児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善が図られたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	【今後のスケジュール】 今後も継続的に特別支援教育支援員の配置及びスクールソーシャルワーカーを配置することで、学校生活や学習上の困難の改善を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 対象者のうち大多数の保護者が児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善が図られたといえる数値として設定した。また、本事業の在り方についてアンケートにより検証する。	
5	①	赤土流出防止検討調査事業	H24 ～ H31	本町をはじめ沖縄県内で以前から問題とされてきている海洋への赤土流出について、その発生源に対する対策を実施し、赤土流出を軽減することで環境保全を図る。	流出対策事業(工事)実施	長田川砂防ダム堆積土浚渫量 V=3,688.9m <sup>3</sup>	【今後のスケジュール】 調査検討業務の成果を活用し、今後も継続的に赤土流出対策を実施することで環境保全を図る。	【H30成果目標設定の考え方】 設計測量時の堆積土浚渫量を参考に設定した。	

H30活動目標(指標):平成30年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものの。

H30成果目標(指標):平成30年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来年夏頃)までに把握できるものを記載している。

平成30年度 沖縄振興特別推進交付金（市町村）成果目標一覧

本部町		事業名	計画期間	事業概要		H30成果目標(指標)	備考	
事業番号	H30事業内容			H30活動目標(指標)	今後の展開方針等		補足説明等	
パ 細								
6	①	本部町配水安定化事業	H29 ～ H30	本町の上本部地域は海洋博公園を核として数多くの観光施設が存在している。この地域の水道は、本部町水道管理センターから嘉津宇配水池にポンプ圧送・自然流下により配水しているが、もし台風等により水道管理センターが停電すると、非常用電源の確保ができないため、同配水池への圧送ができなくなり、断水してしまう。そこで、同センターに非常用電源設備を設置し、停電発生時でも安定して配水することで、観光産業・住民生活のライフラインを確保する。	水道管理センターにおける非常用電源設備の設置工事の実施	非常用電源設備の設置完了。	【H31成果目標】 停電による断水被害 0件  【今後のスケジュール】 H30 整備工事実施・完了 H31 供用開始	【H31成果目標設定の考え方】 断水被害を0件にすることを目標に設定した。
6	②	防災施設機能強化整備事業	H29 ～ H31	地震津波発生時に住民や観光客を迅速に避難させるため、緊急避難路を整備し、防災力の向上を図る。	・実施設計の実施 ・用地買収の実施	・実施設計の完了 ・用地買収の完了	【H32成果目標】 ・本避難路を活用した避難訓練の実施(2回/年)により、本事業のあり方を検証する。  【今後のスケジュール】 H30 実施設計、用地買収 H31 整備工事実施・完了 H32 供用開始	【H32成果目標設定の考え方】 過去の実績等を勘案して設定した。

H30活動目標(指標):平成30年度における当該事業の主な取組や事業量をあらわしたものの。

H30成果目標(指標):平成30年度における当該事業の実績や成果をあらわしたものの。なお成果目標(指標)は事後評価を行う時期(来夏頃)までに把握できるものを記載している。